

## I 引用の仕方



### (1) 独立した段落として引用する場合（長い引用の場合）

引用文を書いた後、()で著者・出版年・該当ページ数（複数ページに渡るときは、23-24とする）を入れる。「」で引用文を囲う必要はない。

→論文末の参考文献表で、著者・出版年を手がかりに文献を特定できるようにする。

（注意）文献から長めの文章を引用する—引用文が数行にわたる—ときは、前後各1行ずつあけ、そして、左側を全角で2字分字下げして、引用であることを明示すること。引用部分を全角で2字分字下げするのは、引用文と引用文のあいだに短い本文が入る場合には、全角1字分の字下げでは、引用部分と本文の行頭がそろってしまうので、それを避けるためである。

いつの時代も、比較的若い世代は悩む。しかし、その“悩み方”あるいは“表現の仕方”は、やはり時代によって影響を受ける。

（一行あける）

←→ 二文字字下げ  
学問—歴史学—私はそれが何であるかを知らない。私は勉強をしていない、遊びずきの大学生であったのだ。「独りであること」、「未熟であること」、これが私の二十歳の原点である。（高野 1979: 13）

（一行あける）

この文章で示されているのは、あるべき規範がはっきりしていて、そこにたどりつけない悩みであるといえる。他方、現代社会の若者たちは、はっきりとした“なるべき”モデルを持たず…

### (2) 文中に引用する場合

引用文を「」で文中に挿入し、文の最後に()で著者・出版年・該当ページ数（複数ページに渡るときは、23-24とする）を入れる。引用文の中に「」が含まれる場合は、『』にかえる。

→論文末の参考文献表で、著者・出版年を手がかりに文献を特定できるようにする。

(例)

彼女の“娼婦”という選択は、藤本が指摘するように、「自我を捨ててすべての人を受け入れることで、自分も世の中から受け入れ返されると思った」ことから来ている(藤本 1999:19)。

### (3) 新聞記事や雑誌記事からの引用について

引用文の後に、(『朝日新聞』1998. 11. 3 朝刊) とか (『毎日新聞』1998. 11. 11 夕刊) と出典を注記するだけでよく、文献リストに文献としてあげる必要はない。ただし、必要と思われる場合には、朝刊／夕刊の区別だけでなく、(『〇〇新聞』1999. 3. 15 夕刊, 第〇版, 〇〇県版, 〇面) などとより詳細な情報も記載するとよい。

### (4) 電子メディアからの引用

本の場合と同じ。ただし、引用ページはない。

## Ⅱ 参考文献の挙げ方

### (1) 順序

- ・邦文献だけのときは五十音順。
- ・洋文献も混じっているときは、アルファベット順。

### (2) 本の場合

著者名（ファミリーネーム、ファーストネーム ミドルネームの順）、出版年、書名、出版社（洋文献の場合は、出版地と出版社）

#### ① 邦文献の場合（書名は『』）

高野悦子 1979 『二十歳の原点』 新潮社

藤本由香里 1999 『快樂電流』 河出書房新社

リースマン、デイビッド 1964 『孤独な群衆』 みすず書房

#### ② 洋文献の場合（書名は、イタリックか、下線）

Riesman, David, 1961, *The lonely crowd : a study of the changing American character*,  
New Haven : Yale University Press. イタリック

Riesman, David, 1961, The lonely crowd : a study of the changing American character,  
New Haven : Yale University Press. 下線

Riesman, David, 1961, *The lonely crowd : a study of the changing American character*,  
New Haven : Yale University Press. (=加藤秀俊訳 1964 『孤独な群衆』 み  
すず書房) イタリック+翻訳

### (3) 論文の場合

#### ①邦文献（論文名は「」、それが収められている書名や雑誌名は『』）

##### # 1 本に収められている論文を挙げる場合

著者名、出版年、論文タイトル、本の編著者名（本人だけが著者の場合は不要）、出版年（論文と本との出版年が違う場合のみ必要）、書名、出版社、ページ数。

小林和美・池田太臣・中野伸一 1996 「避難行動の地域的展開と避難所形成」 岩  
崎信彦・鶴飼考造編 1999 『阪神・淡路大震災の社会学第1巻 被災と救  
援の社会学』 昭和堂 120-135

## # 2 雑誌に収められている論文を挙げる場合

著者名、出版年、論文のタイトル、雑誌名、巻（号）：ページ数。

池田太臣 1997 「M・ウェーバーにおける経済変動へのもう一つの視座」 『ソシオロジ』 42(1):3-21

②洋文献の場合（論文のタイトルは、“” で囲む。論文の収録されている本や雑誌のタイトルはイタリックか下線。）

## # 1 本に収められている論文を挙げる場合

著者名（著者のファミリーネーム、ファーストネーム ミドルネーム）、出版年、“論文のタイトル”、本の編著者名（本人だけが著者の場合は不要）、出版年（論文と本との出版年が違う場合のみ必要）、書名（イタリックか下線）、出版地：出版社、ページ数

Shearing, Clifford D., & Stenning, Philip C., 1985, “From Panopticon to Disney World: The Development of Discipline”, Doob, Anthony N. & Greenspan, Edward L., (eds.), *Perspectives in Criminal Law: Essays in Honour of John Ll.J.Edwards*, Ontario: Canada Law Books, 335-49.

## # 2 雑誌に収められている論文を挙げる場合

著者名（著者のファミリーネーム、ファーストネーム ミドルネーム）、出版年、“論文のタイトル”、雑誌名、巻(号)：論文の初ページ-終ページ。

Coleman, James. S., 1986, “Social Theory, Social Research, and a Theory of Action”, *American Journal of Sociology*, (91)6: 1309-1335.

## (4) 電子メディアの場合

引用先がホームページであるときも、基本的には同じやりかただが、最後に“URL”と“アクセス 年月日”をつける。

(注意) 通常の文献の記載において「著者名」にあたる項目には、当該情報の著者名を記載する。当該情報の著者とそのホームページの製作主体が異なる場合もありうるが、その場合も著者のほうを記載する。

宮野 勝 1997 「社会調査の参考資料ガイド（入門編）」 (<http://syajyo.tamacc.chuo-u.ac.jp/~miyaken/cyosa.html>, 1998.12.10)

Kim, Myung-Soo, 1999, "Research on Consciousness among Korean Youth in Japan, 1993"(<http://www.han.org/a/researche.html>, 1999.3.16)